令和２年度第２回森林環境保全税関連事業評価委員会議事録

**１　日　時**　　令和２年９月２９日（火）１３：３０～

**２　場　所**　　鳥取県立倉吉未来中心　セミナールーム５（倉吉市駄経寺町２１２－５）

**３　出席者**　　荒田鉄二（鳥取県公立鳥取環境大学教授）

　　　　　　　高倉美香（鳥取県生活協同組合副理事）

竹歳和晃（倉吉観光マイス協会理事、ホテルアーク２１副支配人）

濱田美絵（（株）めぐみ代表、トトリネット事務局長）

浜辺光子（琴浦町赤碕婦人会監事）

山城伸一（米子商工会議所青年部副会長、(株)ｸﾛｰﾊﾞｰﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ代表取締役社長）

山本　昌志（八頭森林組合　課長）

**４　農林水産部森林・林業振興局森林づくり推進課池内課長挨拶**

**５　森林環境保全税関連事業評価委員会委員長（高倉委員）挨拶**

**６　委員の出席**

委員数１０名のうち７名の出席で、定足数に達しているため本会は成立となる。

**７　議事**

**(１)令和２年度とっとり県民参加の森づくり推進事業（ソフト事業）企画書等の審査及び選定について**

**○企画内容の説明【特定非営利活動法人とっとり希望化計画２１】**

・企画書等により企画内容を説明。

**○質疑応答**

【委員】

　１年目、２年目に整備をして３年目に植栽したら、その後に保育や手入れしていかないといけないと生育していかないと思うが考えは？

【とっとり希望化計画２１】

現地は、枯損木や倒木がどの程度あるのかわからない。３年計画にしているが、５年かかるかもしれない。奥の方は手つかずでもある。植栽するのにも空間がないといけないし、密植になるといけないし、検討することが多い。

現地はアカマツで、混交林化を目指して他の樹種でもいいという考えもあるので、何を植えるかは県や国と相談して考えたい。

【委員】

SDGsを掲げるなら参加者にSDGsを理解してもらえる活動をしないといけない。初めにDGsのカードゲームなどして理解を深めてから草刈りをしてほしい。そういったことが、要領にある事業内容の「他の模範となり、波及効果が高いもの」となる。

【とっとり希望化計画２１】

これまで小５を対象に鳥大の先生を呼んで森の大切さを教えてもらった。コロナ対策で事前に参加者を募るので、申込者には事前にSDGsの資料を送って情報を提供して学んで来てもらいたい。大学の先生や学生にも参加を募りたい。

【委員】

紙を使うから木が必要になる、紙による広報が必要なのか、SNSの活用の検討を。資源を使わない、木を切らない。プラスチックにしても、無駄を省くといったことを考えていくことがSDGsにつながる。

【委員】

初年度は、現地の状況把握に力を入れて、次年度につなげてはどうか。伯耆町は豊かな森づくり実行委員会を10年以上続けている。町、森林組合、中学生とうまく連携されたら、継続性も出てくるのでは？

【とっとり希望化計画２１】

初年度は準備行為、２年目は出来れば提供して、地元とつながりを大事にしたい。「町とも連携していきたい。

【委員】

保全活動型で応募されていているのはなぜか？３年目は植樹希望者を募っているので地域の人ではないし。SDGsを全部やるというのは無理なので、その中の何をやるか？どれをやるか、参加する人に示すのが大事だと思う。

【とっとり希望化計画２１】

保全していかないといけないし、幅広く利用してもらいたいという思いもあり応募した。

【委員】

SDGsの中では、１４、１５が近いのでは？

【委員】

SDGsを銘打ってやるなら、徹底してやらないといけない。全ての項目をするのは無理なので体験を通してSDGsを考えるとされたほうがいい。

【とっとり希望化計画２１】

　意識を持ってもらう契機にしたい。出来る部分を参加者に提案したい。

**○審査結果**

　審査の結果、保全活動型の応募であったが、体験型として採択する。

**(２)その他**

【事務局】令和元年度の森林環境保全税の実績について、次回の評価委員会は、植樹イベントの審査になる予定、例年１２月。県植樹祭の案内。